



JASDAQ

平成 30 年 8 月 8 日

各 位

会 社 名 株式会社大日光・エンジニアリング  
代表者名 代表取締役社長 山口 侑男  
(JASDAQ・コード 6635)  
問合せ先  
役職・氏名 取締役経営企画室長 為崎 靖夫  
電話 (0288)26-3930

### 業績予想との差異に関するお知らせ

平成 30 年 2 月 14 日に公表致しました平成 30 年 12 月期（平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日）第 2 四半期連結業績予想と、本日公表致しました第 2 四半期決算短信におきまして下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

#### 記

1. 平成 30 年第 2 四半期連結業績予想値と第 2 四半期決算短信における実績値との差異  
(平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 6 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	13,000	100	80	50	19.26
今回実績値 (B)	12,649	71	44	△37	△14.35
増減額 (B-A)	△350	△28	△35	△87	—
増減率	△2.7%	△28.1%	△44.7%	—	—
(ご参考) 平成 29 年 12 月期 第 2 四半期実績	12,729	79	134	114	44.05

#### 2. 差異の理由

売上高は、日本、中国無錫・タイ子会社においてはほぼ予想通りとなりました。一方、香港・深圳子会社においては、オフィス・ビジネス機器関連受注先の生産国見直しの動き（中国からベトナム、フィリピン）が想定以上に進んだことにより、同部門の売上が大きく減少しました。また、増産を見込んでいた電源関係基板は、一部基幹部品の世界的な供給逼迫を受け生産が遅れたことにより、想定した売上を確保することが出来ませんでした。以上より連結売上高は、12,649 百万円（前回予想比 2.7%減）となりました。

損益面では、香港・深圳子会社が部品供給逼迫に起因して生産調整を強いられたこと、中国 2 子会社において人件費上昇等により製造原価が増加したこと、国内外において価格競争激化によって付加価値が低下したこと等から、連結営業利益は 71 百万（前回予想比 28.1%減）となりました。

また、海外子会社において第 2 四半期に起こった急激な自国通貨安に伴い為替差損が発生したことから、連結経常利益は 44 百万円（前回予想比 44.7%減）となりました。

上記に加えて、固定資産売却による特別利益、固定資産除売却による特別損失、法人税等を加減した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は 37 百万円となりました。

なお、平成 30 年 12 月期通期業績予想につきましては、当第 3 四半期以降に遅延している電源関係基板の生産回復を見込んでおり、現時点での変更はございません。今後、業績予想に変更が必要となった場合は、速やかに開示いたします。

以上